

2021 年度入学式 学長式辞

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。御父母の皆様もお慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。本日は経済学部、経営学部、理工学部、文学部、法学部の5つの学部と、経済経営研究科、理工学研究科、文学研究科、法学政治学研究科の4つの研究科をすべて合計しておよそ1900名の新入生のみなさんを、ここにお迎えできたことは誠に喜ばしい限りです。

1年前から拡大し始めた新型コロナウイルス感染症は、いま世界で1億2千万人以上の人が感染し、250万人以上の人が亡くなるという歴史的なパンデミックになりました。この一年の間、これまで経験したことがないような生活様式、外出自粛などの辛く苦しい状況の中で、見事に合格をつかみ取られた新入生のみなさんの努力と頑張りに心から敬意を表し、お祝いの言葉を述べたいと思います。

成蹊大学の母体である成蹊学園は今から109年前の1912年に、教育者中村春二が創立した成蹊実務学校に始まります。「成蹊」という名前は、司馬遷の書いた『史記』の李將軍列伝の中に見られる「桃李不言下自成蹊」（桃李もの言わざれども下自ずから蹊を成す）という言葉から採ったもので、桃や李（すもも）の木の下には匂いに導かれて自然に道ができるように、徳の高い人の周りには自然に人が集まるということを意味しています。中村春二は当時の文部省の画一的注入教育に反対し、個性尊重の人間教育を理念に掲げて自らの学校をつくろうと考え、父親の遺産をつぎ込んで池袋に土地を購入しました。校舎を建てていよいよ4月から開講するという直前の3月23日、近隣で発生した火事が校舎に燃え移り一夜にして校舎は全焼してしまいました。父親の遺産をすべてつぎ込んで自分の夢に向かって進んでいこうとしている矢先、すべてが一夜にして灰になってしまったわけですから、例えようなない深い絶望と落胆の中に突き落とされたと思います。しかしそれでも中村春二は、教育にまい進する不退転の決意を固め、わずか1週間で仮の校舎を建て、予定通り新入生を迎え入れました。そのときに中村春二は「校舎はみすぼらしいかもしれないが、教えるものと学ぶものがいれば教育は野原ででもできる」と生徒たちに説きました。

今まさにコロナ禍の中で、感染防止対策をとりながら可能な限り対面授業や課外活動、学校行事などを進めていくつもりですが、どうしてもオンラインに頼らざるを得ない局面もでてくると思います。たとえ授業を教室で聞くことができなくなったとしても、教える側と学ぶ側の情熱が共鳴すれば教育は必ず前に進みます。それこそが成蹊教育の原点であり、100年前に中村春二が身をもって私たちに伝えたことです。

数年前からAI、ロボット、IoTなどの新しいテクノロジーが社会に実装されるようになり、教育のデジタル化だけでなく社会全体を大きく変えていくような流れが発生しました。わが国では新たに生まれようとしている社会をSociety5.0と名付けました。そしてこの流れは新型コロナウイルスによって急激に加速し始めました。このような激しく変化する社会を生き抜いていくためには、どのような心構えが必要でしょうか。不確実な変化が迫ってくるときは、どの方向に変化しても耐えられるように、適応できるように準備しておくことが大切です。どの方向に変化するかわからないからです。しかし一人でこのような準備するには限界があります。多様な分野の人々と連携すること、多様な人々と手をつなぐことが

大切です。このことを念頭において成蹊大学では数年前から「コラボの成蹊」という方向性を打ち出しました。

実際、いま社会の様々な分野で多様な人々が連携しようとする動きが盛んに生じています。そしてそのような状況の中では人は必然的に多様性の高いチームになって仕事をするようになります。したがってこれからはそのような多様性の高い強いチームのメンバーに選ばれることが重要になってきます。それでは強いチームのメンバーに選ばれる人材とはどのような人でしょうか。みなさんの中にはドラゴンクエストやファイナルファンタジーなどのロールプレイングゲームで遊んだ経験のある人も多いと思います。最後にラスボスを倒しに行くためのパーティーをどのように組んだかを思い出してみてください。相互に補完しあうような秀でた特技や能力をもったキャラクターを集めたのではないのでしょうか。攻撃的なキャラクターだけではうまくいかない、補助や回復ができるキャラクターが必要だったと思います。もうお分かりだと思います。条件が2つあります。一つは「相互に補完しあうこと」であり、もう一つは「秀でた特技、能力をもっていること」です。中途半端な能力のキャラクターではラスボス討伐チームには選ばれません。

苦手を克服しなさいとよく言われますが、もちろんそれも大切なことではありますが、これからの大学生活においては、得意なことを伸ばす方がその何倍も大切です。みなさんもぜひ自分の得意なものを磨き、だれにも負けないようなスキルや知識を身に付けていってください。また、すべての学部がワンキャンパスの中にある成蹊大学での学びには、専門性の異なる人が共に学んだり話し合ったりすることが数多くあり、相互に補完し合うチームワークを身に付けるのに絶好の機会になります。課外活動やボランティア活動などもバックグラウンドが違う人たちが協働するよい機会になります。ぜひ成蹊大学をフル活用して、強いチームのメンバーに選ばれるような人材になることを目指してください。それが激しく変化する社会に立ち向かう唯一の道です。

今朝、窓から下を眺めていると、乱れ散る桜の中を体育館へ向かう新入生の皆さんが、ピンクのじゅうたんの上を一筋の列となって進んでいるのが見えました。とても明るい気持ちになって思わず一句詠んでみました。

蹊（こみち）成す 若人が踏む 桜かな

みなさんが踏みしめた桜のじゅうたんの上の足跡は、みなさんが成蹊大学のキャンパスにしるした最初の一步です。小さな一歩かもしれませんが、それは桃李の道へと続く大切な一歩です。どうか希望と情熱をもって学生生活をおくってください。激動する社会を乗り切っていける人材に成長したみなさんと授業でお会いできることを心から楽しみにして私からのお祝いの言葉を終えたいと思います。本日はほんとうにおめでとうございます。

2021年4月1日

成蹊大学長 北川 浩